

とやまファン
倶楽部

No.33

2019



CONTENTS



リレーエッセイ 32/大田 弘	2P
第24回とやまファン倶楽部会員交流会	3P
とやま賞	4P
「夢の卵」育成事業	5P
会員交流広場	6P
富山県からのお知らせ	7P

故郷が教えてくれたこと
——共生の大切さ——

大田 弘 さん



プロフィール

大田 弘(おた ひろし)
株式会社 熊谷組 社友
1952年黒部市(旧宇奈月町)生まれ。
北海道大工学部土木工学科を卒業後、
1975年に熊谷組に入社。
経営企画本部長、常務などを経て2005
年4月に社長に就任。
2013年6月に会長、2015年6月から相談
役に就き、現在は社友。
2009年以降、日本土木工業協会副会長、
日本建設業連合会理事・環境委員長、
日本建設機械施工協会副会長を歴任。
2019年8月より魚津高校同窓会長。



涅槃団子作り

私は日本有数の急流河川・黒部川沿いの山村、宇奈月町で生を受けた。宇奈月は100年ほど前から黒部川の水力発電開発の拠点となった所で、最上流部に黒部川第四発電所(1963年完成/通称・クロヨン/殉職者数171名)がある。クロヨンが完成した時は小学5年生、小学校にあつた村唯一のテレビで、クロヨン完成の様子をみんなで観たが、この仕事で同級生の父親が命を落としたことも知った。当時、作文に「大きくなったら安全にダムをつくる土木技術者になりたい」と綴った。そして、1968年に公開され、観客動員733万人の空前の大ヒットとなった映画「黒部の太陽」(主演・石原裕次郎、三船敏郎)を観て感動し、土木を立志、裕次郎が演じた建設会社に入った。土木であれば「裏日本」山村の出身者でも都会人には負けないだろうとの思いもあった。

入社後は、ブレーキもバックギアも持たない「暴走族」(当時は企業戦士ともいった)と化した。富山弁で云うと「ダラ」のように働き続け、この40年間、故郷を振り返ることは一切なかったが、今年の7月から生活の拠点を東京から宇奈月に

変えた。生まれ故郷への移住である。田舎を捨てた不届きものであるにも関わらず、何事も無かったかのように集落民は私を温かく迎え入れてくれた。家の周りの草を刈ったり、倒木を片付けたり、山道を整備するなどの日々を送っているが、小さい頃のことがつい最近の出来事のように蘇ってくる。

家の敷地内に流れている農業用水の水門を開閉させて遊んでいた時のこと。祖父からこっぴどく叱られ納屋に閉じ込められた。この集落は100年ほど前までは米作に必要な十分な水が得られず養蚕や煙草葉・果樹栽培で何とか生き抜いてきたが、黒部川からの引水により、それが可能となった。しかし、水を巡る争い(我田引水)が絶えなかったので、選ばれた数人の大人が掟に基づいて公平な水門操作を行っていたのだ。水量が少ないときは少ないなりに「お互いがガマン、ガマン」の共生(ともいき)である。

また、祖母に庭になっていた最後の柿の実三つをねだった時のことを思い出す。祖母はこう云った。「一つは食べて良い。一つは鳥に食べさせる。そして最後の一つは土に返す」と。小学校での教育が受

けられず読み書きが出来なかった祖母だったが人の生き方の原理原則、共生(ともいき)を一体誰から教わったのだろうか?この言葉は歳を重ねるに連れて脳裏で増幅する一方である。

60年前に「過疎」、40年前には「中山間地」、そして20年前には「限界集落」という警鐘語が生まれた。高度経済成長の副作用として東京などへの一極集中が過度に進行し、この数年、地方創生が叫ばれているが、一筋縄では行かないようである。

また、成熟社会は一見、多様化を実現しつつあるように見える。しかしそれが目先の経済的な損得に重きをおいた無味乾燥な「個人化」の進展であれば、幸せとはほど遠い社会が到来する。多様な価値観とは何でもありではない。それぞれの判断で人生を設計し、それぞれの責任で歩まなければならない。それは決して容易なことではない。これまで先人たちが力を合わせて築き上げてきた智慧から学ぶことの大切さを思い起こしつつ、共生(ともいき)の約束事(利他心/道義心)を土台とし、その上で個々人の価値観を

際立たせることができる社会を目指すべきではないだろうか。国家や地域、人は本質的には多様であり、多様であるべき文化や価値観があくなき利潤を追求するグローバル市場になぎ倒され、様々な矛盾が顕在化してきているのではないか?地方創生や一億総活躍、女性活躍などの目的が経済再成長を促すためではなく、それぞれが、かけがえない人生を送れる多様な価値観が尊重される国へと豊かさの質を転換するための方策であつてもらいたいと思う。まさに「共生(ともいき)」の回復が国難突破の鍵となるような気がする。期待感もこめて。



庭の草刈りをする筆者



第24回 とやまファン倶楽部 会員交流会

TOYAMA FAN CLUB

乾杯



福田代表世話人

開会挨拶



石井知事(財団理事長)

開会挨拶



桑山代表世話人

お礼の言葉



中川県議会議員

挨拶



井上衆議院議員

挨拶



橘衆議院議員

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部 会員交流会」が7月10日(水)、ホテルパール麹町(東京)で約130名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。

交流会では、新入会員9名をご紹介し、今年開館3周年を迎えた日本橋とやま館のPRのほか、昨春秋に本格デビューした富山米新品種「富富富」や日本橋とやま館の商品券や食事券が当たるお楽しみ抽選会が行われました。

また、「とやま牛」や「富富富」の握り寿司をはじめ富山の新鮮な食材を使った料理や地酒を用意し、会員の皆様に富山の味を堪能していただきながら、終始和やかに皆さんの話の輪が広がりました。



新入会員の皆様紹介

県からのお知らせ



日本橋とやま館PR
(日本橋とやま館 荻浦館長)

お楽しみ抽選会



お楽しみ抽選会 景品プレゼント
(石井理事長より贈呈)



「富富富」の握り寿司



「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念し、富山県ならびに日本の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設され、今回で36回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者、または富山県内在住者とし、学術研究、科学技術、文化・芸術、スポーツの分野において、顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される人に対して、賞状、奨励金を贈呈して、その活動を奨励しております。

今年度の贈呈式は、5月29日(水)に富山国際会議場メインホールで行われ、学術研究部門で3名、科学技術部門で1名、文化・芸術部門で1名の計5名の方々が受賞されました。

第36回受賞者

学術研究部門 医薬分野(免疫学)

富山大学大学院医学薬学研究部(医学) 助教

小林 栄治 氏

がん免疫療法を目指した抗原特異的T細胞受容体遺伝子の網羅的取得法の開発



学術研究部門 理工分野(物理化学)

富山大学大学院理工学研究部(工学) 准教授

石山 達也 氏

新材料の開発を目指した高分子界面の分子構造研究



学術研究部門 理工分野(ケミカルバイオロジー)

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 特任准教授

多喜 正泰 氏

細胞機能の精密イメージングを実現する革新的蛍光色素の創出



科学技術部門 (放射線診断学、呼吸器)

金沢大学医薬保健研究域保健学系 准教授

田中 利恵 氏

低線量X線動画イメージングによる新しい肺機能診断技術の創出



文化・芸術部門 (演劇)

庭劇団ペニノ 劇作家・演出家

タニノクロウ 氏

演劇の新しい地平を拓き、舞台芸術の新たな可能性の扉をも開く



選考委員長講評



石井理事長より贈呈



受賞記念講演

当倶楽部の会員の皆様などにご協力をいただきながら行った事業を紹介いたします。

「夢の卵」 育成事業



この事業では、「将来こんな職業に就きたい」という「夢の卵(将来の夢)」を作文にしてもらい、優秀作品を表彰して、その道の第一人者のもとへ派遣しています。今年度で16回を数え、小学生の部と中学生の部をあわせて2,234作品の応募があり、その中から選ばれた4名の子どもたちに夏休み期間中、夢に一歩近づいてもらうために、短期入門してもらいました。



小学生の部 (応募数 1,214 作品)

入門
内容

富山の自然を活かせる 建築家になりたい

河原 詩緒里さん (上市町立宮川小学校6年)
建築や公園でふるさと富山に対する「好き」という思いを表現し伝えていきたいという気持ちを持って、富山大学芸術文化学部に入門し、建築物の見学や、八尾の街並みを飾る影絵のデザインを体験しました。



芸術文化学部の
横山天心准教授と

木津の庄コミュニティセンターにて



入門
内容

宇宙のあらゆる謎を解き明かす 研究者になりたい

田村 大輝さん (富山市立大久保小学校5年)
星空観察やKAGRAの見学など多くの体験を通し、宇宙の研究者になりたいという気持ちを持って、富山市科学博物館に入門し、天体やスペクトル、隕石について学び、プラネタリウム操作体験をしました。



富山市科学博物館の
林忠史学芸課長代理と

プラネタリウム操作を体験



中学生の部 (応募数 1,020 作品)

入門
内容

大相撲の立行司になりたい

村田 宏樹さん (射水市立射北中学校2年)
憧れを出発点に、行司が好きであり、なりたいたいという強い気持ちを持って、式守伊之助に入門し、行司の仕事について聞きすると共に、高砂部屋に入門し、相撲部屋での行司の仕事体験しました。



立行司第41代式守伊之助と

高砂部屋で相撲字練習



入門
内容

安全に環境を再構成できる 解体業者になりたい

今井 英介さん (南砺市立井口中学校2年)
解体に興味を持ち、その環境影響や廃材の再利用を学ぶ気持ちを持って佐藤工業に入門し、横浜市の「ぴあアリーナMM」新築工事現場を見学して廃材の仕分け等を体験しました。また高俊興業では混合廃棄物のリサイクルを見学しました。



ぴあアリーナ MM 建設現場を見学

高俊興業の中央操作室にて



会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部を紹介～

今年度の会員交流会(7月10日(水)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp>)に掲載させていただいております。

元号が令和になり、富山との関係が浅くないことに驚きを感じています。令和の提案者とされる中西進氏が高志の国文学館の館長であること、万葉集の編者とされるのが大伴家持であること等、話題に事欠きません。

富山は特に12月、大雪の降る前が好きです。主としてANAホテルに泊りますが、上階から見る立山連峰の雄大さは本当に何かつつまれた感じがします。それに加えて食べ物が最高に美味しい。冬の魚介類は抜群です。私は数年に1回は必ず冬に富山訪問をいたします。皆様に宣伝したいです。

富山には素晴らしい自然美が多くあり、全国的にも良く知られています。しかし、私見ですが、文化的な面でも素晴らしいものが多くあるのに、PR活動不足と思われる。例えば美術、工芸、食品、薬等の工房、サッシュ工場、発電所等、仕事場の見学など一般的に広くPRすることで知名度が上がると考えます。県出身者も一層努力をしていきます。

今や外国や他府県からの富山移住者は少なくない(増え続けていること)と思いますが、それらの方々の移住体験(体感)を大切にして富山というところの素晴らしさや魅力を告知宣伝したらいいと思います。

「働き方改革」やフリーランスの増大で、働く場所を選ぶことができる人が増えてきています。自分自身も東京と富山で仕事ができるようにと準備を開始しています。

定住促進だけでなく「関係人口」を増やすべく「二拠点居住」も促進するような施策があると良いと考えてます。(別荘地としての魅力発信も有用ではないでしょうか。)

立山黒部アルペンルートに代表される雄大な自然、ホタルイカ、白エビ、寒ブリなどキトキトな魚介類。約1年の富山勤務でしたが、貴重な体験でした。ゆっくりと自己再生(再発見)できる観光施策を実現してください!

北陸3県は“住みやすい”“暮らしやすい”などのランキングで常に上位にあります。他にも経済ランク、県民所得ランクなども上位です。

今後は地方、日本の人口減少、少子高齢化、生産年齢人口減少のなか、子育て、生活の面で富山県がいかに住みやすいか「若者が次々に住みたくなり集まり移住する富山県」というイメージを確立できるような施策の充実を、県政、県のイメージアップ共に図っていくべきです。

富山のブランドは 水、米、新鮮な魚 そして人!

NHKの大相撲中継で、富山出身の朝乃山の活躍を家族揃って応援しています。是非優勝して欲しいものです。朝乃山ガンバレ!

愛媛県でも、ホタルイカ、氷見うどん、白えび、もちろん氷見ぶりは有名になってきています。松山市内には、富山直送の魚を扱う居酒屋や富山ブラックのラーメン店があり、懐かしく感じています。

初春令月気淑風和梅披鏡前之粉蘭薰珮後之香一万葉集より
新元号の由来が郷里の街おこしに繋がり、商売繁盛に役立つことを願う一人でもあります。

日本海沿岸の地域では山陰の島根・鳥取に比べて富山県の対外アピール(観光)が少々劣るようです。県内の自然、山海の味覚など全般のPR戦略を高めてほしい。ひとつの方策として「とやまふるさと大使」の名刺の活用を広げてほしい。内外の取材活動でジャーナリストが必ず「とやまふるさと大使」の名刺を相手と交わしてひとことメッセージを伝える。裏面に明示された観光施設の割引入場など説明する効用は大きい。ジャーナリストの大使を増やしてはいかが。

旅行する際に「受け取った名刺を持って富山へ」。ひとり歩きする名刺にしてほしいですね。

とやまに移住で 最大100万円!

新しいくらしに
今飛び込もう!

移住
支援金
単身で
60
万円
世帯で
100
万円
起業支援金 **+200**万円

東京23区(在住者または通勤者)から富山県へ移住し、
対象法人に就業した方、または起業された方に
移住支援金・起業支援金を支給します。

東京23区にお住まいなら、「移住支援金制度」をご活用ください

東京23区(在住者又は通勤者)から富山県内に移住し、対象法人に就業した方に移住支援金を支給する制度が、今年度から始まりました。東京圏への一極集中の是正や地方の中小企業等における人手不足の解消を目的としています。

富山県へのUターン就職を希望の方をサポートする、求職者と企業のマッチングサイトでも様々な情報を発信しています。

東京23区からの移住をご検討の方は、ぜひご確認ください。また、ご親族やお知り合いの方で、富山への移住を検討している方にも、ぜひお伝えください。

問合せ
富山県総合政策局移住・Uターン促進課
TEL:076-444-4117
FAX:076-444-8694



富山県移住・定住促進サイト
くらしたい国、富山
<https://toyama-teiju.jp/>



求職者と企業のマッチングサイト
とやまUターンガイド
<https://uturn.pref.toyama.lg.jp/>

元気とやま応援寄附金(ふるさと納税)のご案内

ふるさと富山をもっと元気にするため、応援をお願いします!



概要

「ふるさと納税」制度を利用して、富山県にご寄附をされると、住民税などが軽減されます。また、ご寄附の際、「富山の世界ブランド化と新たな価値の創出等を担う人材の育成・確保」や「明日を担う子どもの育成とすべての人が活躍できる環境づくり」など、6つの取組みの中から応援したい取組みをお選びいただけます。

寄附の手続き

ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」からのお申し込みと、申告書をダウンロードして郵送・FAX・電子メールで申し込む方法があります。(お電話にて寄附申込書<切手不要のハガキ>をお取り寄せいただくことも可能です。)



所得税・住民税の軽減

確定申告により、所得税と個人住民税の軽減(寄附金控除)を受けることができます。(確定申告が不要な給与所得者等については、ふるさと納税先団体が5団体以内の場合で確定申告を行わない場合に限り、ふるさと納税先に特例の申請をすることにより、寄附金控除がワンストップで受けられる仕組みがあります。)

お礼の品

県外にお住まいで、富山県へ1万円以上のご寄附をいただいた方に、アイスクリームスプーンやほたるいか詰合せ、2万円以上のご寄附で「富富富」など、寄附金額に応じて県産品などを贈呈します。

問合せ
富山県経営管理部税務課 元気とやま応援寄附金担当
TEL 076-444-3178 FAX 076-444-3487
電子メール genkitoyama@esp.pref.toyama.lg.jp
※詳細は、県ホームページ
<http://www.pref.toyama.jp/sections/1107/furusato/>
をご確認ください

TOYAMA FAN CLUB



問合先

■事務局

公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL076-444-2000 / FAX076-444-2001

E-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

■連絡所

富山県総合政策局企画調整室

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7

TEL076-444-4493 / FAX076-444-3473

富山県首都圏本部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL03-5212-9030 / FAX03-5212-9029

富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL06-6445-2811 / FAX06-6445-2611

富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル3階

TEL052-261-4237 / FAX052-263-7308